

# 「たそがれ野育園」で農業ファンの裾野広げる

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



ファームガーデンたそがれ

(潟上市)

園主 菊地 晃生 (こうせい)

菊地 みちる



ファームガーデンたそがれ HP

## 経営概況

経営面積 | 田: 290a、畑: 60a

作 物 | 水稻、大豆、枝豆、かぼちゃ、里芋  
大根、あずきなど年間約 60 品目

構 成 員 | 2名

販 売 先 | 直販、通信販売



ファームガーデンたそがれ FB

潟上市郊外の農場で、多品目野菜の周年栽培に取り組む認定農業者がいます。農薬、化学肥料を使わない栽培と自主販路の確立を目指し励んでいます。また、農作業をしたことがない人や農地、農機具を保有していない人の自然農法を通じたコミュニティづくりとして「たそがれ野育園」を開園し交流する場をつくっています。

## ▶ きっかけ

菊地さんは、平成 19 年にそれまで暮らしていた北海道から帰郷し、祖父の田畑を受け継いで就農しました。翌年には、自分が好きな情景をイメージして、農場を「ファームガーデンたそがれ」と名付けました。

就農時、米づくりで使用する農薬と化学肥料の多さに驚き、自然農法(無農薬、無化学肥料栽培)を始めたところ、5年目に虫が舞い始め、自然が戻ってきたことを実感しました。この活動を広げたいと思い、平成 26 年に持続的で再生可能な農法を通じたコミュニケーションの場として「たそがれ野育園」を開園しました。



●たそがれ野育園で農作業体験をする子供たち

## ▶ 取組

園では、種まきから収穫まで一貫した農作業を体験してもらいますが、参

加者は子育て世代や県外からの転勤者など、田舎で自然農法をしたいという方が多く、わざわざ県外からやって来る人もいます。また、参加者の中には、与えられた体験だけでなく、自分で農業を始めてみたいという方も現れていると話されました。



共同キッチンで作業をする夫妻

令和3年には、県の事業を活用し、交流拠点として古民家をリノベーション(令和4年 11 月完成)しました。

里の隠れ家「さとれが」と名付け、農業体験に来られた方々が、共同キッチンなどを備えた土間スペースとして利用しています。そこで、みちるさんが「ジャムや塩麴、醤油麴、漬物」などの加工品を作り、運営するインターネットのサイトで農産物と一緒に販売しています。

今年は東京丸の内で開催された「NIPPON FOOD SHIFT FES. 東京

2024」の Marche(マルシェ)に出店しました。



●マルシェで野菜を販売する様子

## ▶ これから

菊地さんは、現在のところ生産規模を拡大するよりも、今の取組をもっと広げ、地域も巻き込み、秋田を活性化していきたいと話されました。



●刈取後の棒掛けをバックに「はいチーズ」

●印写真:ファームガーデン  
たそがれ提供



東北農政局秋田県拠点